

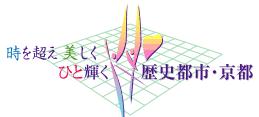
京のきょうと ものがたり

きょうと

京都市図書館情報誌

vol.11

平成17年12月発行



夢ふくらむ図書館に



特集 ボランティアの
皆さんとともに

目次

- ② インタビュー
きょうと情報カードシステム
社会還元委員会 井澤俊幸 委員長
図書館を通じてよりよい京都に
- ③ 図書館小特集
いよいよスタート!!
インターネット予約
- ④ 特集
ボランティアの皆さんとともに
- ⑥ 京都市図書館紹介
移動図書館
- ⑥ 図書館コラム
あなたの感動を分けてください
- ⑦ お知らせ
図書特別整理
U.C.Libニュース 他
- ⑧ 利用者の声
テーマ:「今年心に残った一冊」
- ⑧ 編集後記
秋を過ぎても読書の季節



井澤俊幸委員長

きょうと情報カードシステム
社会還元委員会

図書館を通して よりよい京都に

interview

平成19年度に開館予定の右京中央図書館（仮称）。開館準備の一環として、新図書館にふさわしい資料を現在収集中です。そうした中、「きょうと情報カードシステム（通称KICS）」より平成16年、17年と2年連続で京都ゆかりの図書をたくさん「寄贈いただき、現在、中央図書館でその一部を公開しています。貴重図書や非売品など、一般に入手しにくい資料を厳選した」のコーナーは、利用者の方の人気を集めています。今回は、その「KICS」の社会還元委員会委員長・井澤俊幸氏にお話を伺いました。

KICSとは、どのような団体ですか？

KICSは、平成4年に加盟店のクレジットカード処理の合理化を目的として発足した地域情報化団体です。現在では、同業種組合も含めて44組合1300加盟店を擁する団体となりました。中小商業者で構成するものとしては日本最大規模です。

取り組んでいる事業としては、デビットカードシステムの導入促進や運送「スト削減を目指すビジネスモデル化、インターネット事業の自主運営、通販サイトの構築等、多岐にわたります。

なぜ、図書館に本を寄贈しようと思われたのですか？

私たちが住む京都の地に、何か恩返しができれば：との思いから、年間事業益の一部200万円を原資として、平成9年から社会還元事業に取り組んできました。開始から最初の5年間は、児童養護施設、母子福祉センター等の福祉関連施設にパソコン、プリンター等のIT機器を寄贈してきました。この活動が一巡したこともあり、今後の活動について協議したところ、京都に関わりのある書籍を図書館に寄贈することが京都の伝統文化継承

や保存につながるのではないか、という考えに至りました。KICS内に、もともと図書館利用者が多かったのも大きな要因です。

同時に、「京都大百科事典的図書館」と「充実したIT環境」の二つをコンセプトの中心にした右京中央図書館建設設計画を伺いました。「よりよい京都に」という思いと「IT先端技術の活用」という点がKICSの考え方と大変合致しており、ご縁を感じました。

右京中央図書館にじっくり期待をいただきたく、ありがとうございます。

KICSからの寄贈が、新しい図書館づくりに一役買えたのなら、とても素晴らしいことですし、KICSにとっても新たな社会還元の手段としてふさわしい一步と言えます。

また、寄贈した図書を高く評価していただき、新図書館開館まで出番を待ってただ眠らせておくのではなく、先行して中央図書館で市民の皆さんに閲覧していただけるよう計らっていただけたのは大変嬉しいことです。今後も、京都に関わる素晴らしい資料が閲覧できる図書館であることを期待します。

いよいよスタート！！ インターネット予約

平成18年1月5日から

京图ものがたり

自宅からインターネットを使って24時間
いつでも予約が可能になります

- ・京都市図書館ホームページ (<http://www.kyotocitylib.jp/>) で図書検索画面から、ご希望の図書を予約することができます。雑誌の予約も可能です。
- ・図書館のOPAC（図書検索機）からも予約できます。

予約した図書を受け取る図書館を自由に選べるようになります。

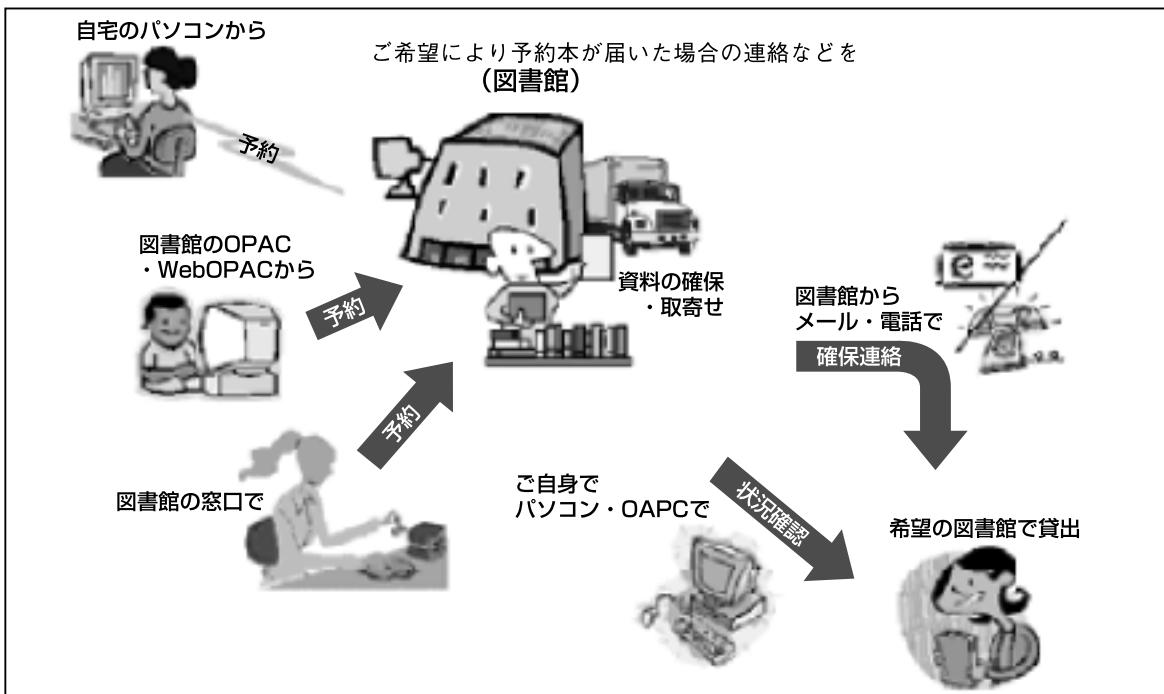
- ・申し込んだ館以外の館でも、予約の図書を受け取ることができます。

自分の「貸出状況」や「予約状況」をインターネットで確認できるようになります。

- ・インターネットやOPAC、携帯電話（iモード）から、自分が借りている図書の題名や返却日、予約している図書の状態を確認することができます。

予約の本がご用意できたら、電子メールでお知らせします。

- ・インターネットで電子メールアドレスを登録された方には、電子メールでお知らせします。



パスワード発行について

インターネット予約サービスを利用するには図書館カードの番号とパスワードが必要です。
パスワードの発行は京都市の各図書館（深草図書館を除く）および移動図書館で受け付けています。

電話番号の確認について

1月5日以降、予約本が届いた場合の電話連絡は、図書館カード発行時に登録していただいている電話番号にさせていただきます。登録電話番号を変更された方、現在登録されている電話番号以外への連絡をご希望の方は、図書館へお申し出ください。

新しい ボランティアの皆さん

最近、図書館で、青いエプロン姿の人方が書架の整理をしているのを見たことはありませんか？新しいボランティアの方々です。市民の皆さんから公募し、研修を経て、10月から中央図書館、醍醐中央図書館をはじめ9館で、学生、主婦、退職された方など多くの方々に書架の整理や返本作業にあたっていただいているいます。

活動は、ボランティアの方ご自身のご都合にあわせて自主的に活動していただくことを基本としています。週1回、2時間程度活動される方が多いですが、中には、ほぼ毎日のように活動されている方もおられます。また、仕事をされながら、夜間や休日に活動されている方も少なくありません。活動ついでに自分も本を借りて帰られるなど、生活の彩りとして楽しんでいらっしゃる方もおられます。

書架がきれい!! 喜びと感謝～職員から～

★これまでから書架の整理に努めてきましたが、ボランティアの皆さんに入ってきていただいてから、書架が格段にきれいになりました。本が配列順に整然と並んでいるため、利用者の方のために本を探すときにも、大変探しやすく助かっています。

★書架で本を探しておられる利用者の方をカウンターにいる職員まで案内していただくことで、職員が、より多くの利用者の方の質問にお答えできているのではと思います。

ボランティアの皆さんとともに

京都市図書館では、多くのボランティアの方が活動されており、パートナーシップのもと、よりよい図書館づくりにご協力いただいています。今回はボランティアの方々のご活躍ぶりを紹介させていただきます。



ボランティアの方々の ご感想

- ★いろいろな本に出会え、楽しい。
- ★本は予想外に重く、けっこう体力がいります。
- ★来館者の方に少しでもお役に立てることがうれしく、張り合いになります。
- ★細く長く自分のペースで続けていきたい。

他でも活躍中！ さまざまなボランティアの皆さん

今年からお迎えしたボランティアの方々以外にも、視覚障害のある方への朗読サービスや、絵本の読み聞かせや紙芝居などの子供向けの行事など、さまざまな業務で多くのボランティアの方々にご活躍いただいています。

これからも引き続き、「図書館を応援したい、よくしたい」というボランティアの方々の協力を得て、よりよい図書館づくりをすすめていきます。

移動図書館

「こじか号」がお届けします

かわいい子鹿のイラストがデザインされているマイクロバスを見かけたことはありませんか？それは京都市の移動図書館、「こじか号」です。約2,200冊の図書を乗せて、公立図書館から遠い市内山間部等を中心に、その名のとおり子鹿のように軽に巡回しています。より多くの人のご期待に添えるよう、京都市全図書館より希望図書の取り寄せも行っています。

全国初の試み

昭和25年、巡回文庫用自動車「青い鳥号」が使用開始されました。これは全国でも初めて実施された、移動図書館の原型です。現在の京都市図書館の前身となる京都市社会教育会館が設置されたのが翌年の昭和28年ですから、まさしく京都市図書館としての事始めも移動図書館から、ということになります。戦後、読書から遠ざかっていた町の人々は、移動図書館がやってくるのを本当に喜んでくださいました。以来、移動図書館は市内を走り続け、「青い鳥号」から「こじか号」に名を切り替えたのが昭和39年、現在の「こじか号」はそれから数えて実に6代目となります。

■「トドかだり」をご覧ください
移動図書館は毎月1回、「こじかだより」を発行して

■「こじか号」の役割
現在、京都市図書館は各区で1館以上、全市で20館設置されています。これは政令指定都市でも有数の設置数です。しかし、左京区や右京区のような大きな区では、いくら区内に図書館があるとはいっても、山間部等にお住まいの方にとって「図書館が遠い」ことに変わりはありません。そういう地域39ヶ所に巡回基地を置き、移動図書館「こじか号」が毎月1回のペースで訪問しております。



「こじか号」は、日に2、3ヶ所の基地を巡回します。その日にお伺いする基地の皆さんのお顔を思い浮かべ、「この本なら喜んでくださるかな」と想像しながら、新しい本を中心にはじめ積み込み、今日も車を走らせているのです。

どこにお住まいの方にも等しく読書の喜びをお届けする、「こじか号」の役割はそこあります。従つて、新しく図書館が開館すると、その周辺にあつた巡回基地は閉鎖されますし、市町村合併等で図書館から遠い地域が「京都市」に加われば、「こじか号」が行くことになります。最近の例で言いますと、今年4月の京北町との合併に伴い、京北合同庁舎前への巡回を開始しています。

■「トドかだり」
10月
図書館コラム

● 東京タワー』341人・『ダ・ヴィンチ・コード』の上巻306人・『容疑者Xの献身』273人・『孤宿の人』の上巻251人・『天使のナイフ』231人。

これは12月のある日、京都市図書館で予約の多い本の上位をピックアップしたものですが、ごらんのとおり人気の本になりますと、300人の方が順番を待つておられます。そこで図書館では同じ本を複数購入して、少しでも順番待ちの時間を短縮させようとしています。しかし限られた予算の中で、同一本を複数購入するにはやはり限度があります。

もしもこうした本の寄贈があれば、その本を使って、今以上にもっと早く利用者の皆さんに提供することができます。

そのため、図書館では予約の多い本は館内やホームページにリストを掲示するなどして、広く寄贈をお願いしています。

図書館は、皆さんにとって必要な本を的確に用意することが、一番大事なことだと感じています。それと同様に、お求めの本をいかに早く皆さんにお届けするかということも我々にとっては大変重要なことです。

寄贈という形で皆様のご協力をいただきながら、より確実に図書館の使命を果たしていきたいと思います。

あなたの感動を 分けてください

~読み終えられた図書の寄贈をお願いします~

図書特別整理

<平成16年度図書特別整理報告>

京都市図書館では、毎年2月から3月にかけて各館が順次臨時休館し、図書特別整理（蔵書点検）を行います。平成16年度は、市立図書館全体で7,146冊、全蔵書の0.44%の不明図書があることがわかりました。

「開かれた図書館」を目指してできるだけ多くの図書を開架し、ボランティアの皆さんのお力も借りて毎日の書架整理に努めていますが、利用者の皆様におかれましても、市民みんなの財産である図書館資料を末永く大切に活用していただくため、お読みになった図書を元の場所に返していただくことや、貸出手続きを必ずしていただく等のご協力をお願いいたします。

<平成17年度図書特別整理に伴う休館のお知らせ>

今年度の図書特別整理に伴い、下記のとおり臨時休館させていただきます。ご不便をおかけしますが、お願いいたします。

休館期間	図書館名
2月 6日～2月 9日	醍醐
2月 6日～2月10日	中央
2月13日～2月17日	醍醐中央
2月14日～2月17日	左京、下京、洛西
2月21日～2月24日	岩倉、東山、南、向島

休館期間	図書館名
2月27日～3月 3日	伏見中央
2月28日～3月 3日	北、久世ふれあいセンター、西京
3月 7日～3月10日	山科、吉祥院、右京、久我のもり、こどもみらい館子育て図書館

<U.C.Lib ニュース①>

ご理解とご協力をよろしく

UCL…Ukyo Central Library
右京中央図書館（仮称）

○今号より、平成19年度開館予定の右京中央図書館について、その開館準備の様子をお届けしたいと思います。

10/13 太秦東部地区市街地再開発施設の工事契約について、市議会で承認を得る。

再開発施設3階に設置予定の右京中央図書館も、いよいよ本格的に開館に向けて動き始めます。

10/27 再開発施設工事説明会開催

地元向けに工事全体の説明。ガラリと雰囲気を変えるであろう天神川地区に、住民の皆さんの期待が伝わってきました。

11/10 起工式

右京中央図書館建設室が発足してから1年半。ようやく起工式を迎えました。平成19年開館に向けて、記念すべき第一歩です。



起工式の様子

お知らせ

○京都市図書館協議会委員改選

中央図書館長の諮問機関である京都市図書館協議会は、平成17年8月1日付で委員改選を行いました。市民公募委員2名を含む新メンバーで、平成17年度第1回協議会を10月19日に開催いたしました。会議の内容は京都市図書館ホームページでご覧いただけます。

○「読み聞かせ講座」やってます！

子どもに絵本や紙芝居を読み聞かせる技術の向上を目的として、初心者対象の「読み聞かせ講座」を、9月30日に山王児童館で、11月18日に太秦小学校で開催しました。次回は1月20日（金）午前10時から山科図書館で開催します。読み聞かせボランティアを始めようとしている方、絵本に興味のある方はぜひご参加ください。（問合せ：山科図書館 581-0503）

○文字・活字文化の日記念事業

今年7月に「文字・活字文化振興法」が成立し、読書週間の初日である10月27日が「文字・活字文化の日」と定められました。これを記念し、京都市各図書館では、おたのしみ会や関連図書の特別展示・貸出を行い、ご好評をいただきました。



「今年心に残った一冊」

テーマ

●左京区 牧 弘美さん(自営業)

左京図書館をよく利用しています。今年お借りした本の中で一番のヒットは桐野夏生著の『魂萌え!』。よく平凡な主婦が夫の突然の死により、一人で老いや孤独に立ち向かうお話です。夫には実は愛人があり、相続問題も出でと、よくあるメロドラマのようですが、そこは桐野ワールド、主人公敏子は過激です。友人達の性格描写も絶妙で、私はこの人に近いかも? 私ならこうするけど……などと考えつつ、一気に読みました。男性版『朋萌え!』も楽しめます。

●西京区 塚原 光子さん(無職)

初めての子育て。はじめの1年間はわからぬことだらけ。ちょっとしたことにも悩み、落ちこみ、楽しむ余裕がなかった。そんな時に出会つたのが『赤ちゃんが書かせてくれた』(巷野悟郎著)。小児科医でもある著者が、赤ちゃんのこと、新米ママの悩み・喜びを、詩で表現。その短い言葉の数々に、共感し、励まされて涙ぼろぼろ。かつては自分も赤ちゃんで、育てられてきたことに感謝。心の育児書として、何度も読み返した一冊です。

●伏見区 上村 憲子さん(会社員)

大瀬敏昭校長先生は、自分の命を引きかえに子供達に命の大切さを訴え続けた方です。テレビドキュメンタリーでも紹介され、多くの方が熱い思いを抱いたことでしょう。その取材の様子を『いのちのリレー』というタイトルで、川久保美紀さんが出版されました。浜ノ郷小学校開校までの、種をまき、芽を育てる教育現場の見えない世界をペンで伝えられ、授業までの職員の話し合い、反省会の様子……。こんな授業を受けられた生徒は、実のある人生の一ページを築けたかと、感動を覚えました。

●伏見区 狗巻 霞さん(自営業)

数少ない読書量の中で禅や仏教書に興味はありましたが、難解すぎて親しめないものを感じていました。先日、知人に勧められて読んだ『澤木興道・生きる力としてのZen』という本は、専門用語の羅列ではなく、チンパンカンパンな禅問答でもなく、歯切れのよい語り口で、活き活きと禅の教えが説かれていて、とても新鮮で身近に感じる安心な寝床ができます。全てが揃つられました。読み終えたあと、「ちょっと坐つてみよっかな?」と思つたりした、晩秋の一日でした。

編集後記

秋を過ぎても読書の季節

読書の季節といえば、秋。読書週間も秋ですし、今年新たに設定された「文字・活字文化の日」も読書週間の初日です。『読書の秋』の由来は定かではありませんが、中国唐代の詩人・韓愈の「時秋にして積雨霽れ 新涼郊墟に入る燈火稍く親しむべく 簡編卷舒すべし(秋になつて涼しくなり、夜長に燈火の下で書物をひもとくにはちょうどよい)』という詩の一節からきているようです。これから転じた「燈(灯)火親しむ」という言葉は、秋の季語として歳時記にも載っていますから、読書『秋のイメージはごく一般的なものだと言えるでしょう。しかし、図書館にとつてはもちろん読書はオールシーズンです。

特に今冬は、インターネット予約の開始により、ご来館いただかなくてもご自宅のパソコンから24時間図書の予約が可能になりました。ご自分の貸出状況や返却期限等もインターネットで確認できます。

ますます便利になつた図書館を活用し、秋より長い冬の夜を暖かいお部屋で読書を楽しむ…というのはいかがでしょうか。

京図ものがたり vol.11

発行
平成17年12月

編集・発行

(財)京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2
TEL 075-802-3133
<http://www.kyotocitylib.jp/>
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>

